



Data

監督: 黄偉 (ウオン・ワイ)

出演: 伍熹賢 (ケント・ン) / 何素源 (ホセ・ホー) / 周一諾 (ココア・チョウ) / 周峻陸 (ジャック・チョウ) / 土屋貴子 / 久保寺淳 / 山内としお / 蒼井そら

■ショートコメント■

◆「第14回大阪アジア映画祭2019」で特別上映された作品が本作だと聞き、お正月のヒマな時間もあって鑑賞。

そのテーマは、「香港と日本を繋ぐ4人の男女の「天命」。より具体的には、「香港、日本、混合チームによる異色青春群像劇！2組の男女と、女と女が織りなす恋愛模様」だが、さてその出来は？

◆香港と日本を股にかけた主人公として登場する2組の男女計4人は、写真家、歌手、映画俳優等のアーティストばかり。しかし、その一見華やかそうに見える世界でも、本人たちはそれなりの苦悩があるようだ。

本作はそれを、写真家リサ・チャン (周一諾 (ココア・チョウ)) のカメラを中心に、都合っぼく、かつスタイリッシュに描くが、反面私の目には薄っぺらにも……。それは、1つはプロの俳優を目指しているゲン (何素源 (ホセ・ホー)) の演技がイマイチなことや、歌手・山本一樹 (周峻陸 (ジャック・チョウ)) の歌がイマイチなこと。彼らの日本語がたどたどしいのは仕方ないが、この程度の実力では一流になるのはちょっと難しいのでは……？

◆それに対して、失明の恐怖におののいている写真家のリサが撮る写真はグッド！しかし、当初の同情から次第に同性愛的な関係になっていくトントン (伍熹賢 (ケント・ン)) が「写真を教えて」と言い始めると……。写真ってこんなに簡単に教えることができ、また、こんなに早く覚え、上達できるの……？

◆本作のチラシには、増當竜也氏（映画文筆）の次の文章がある。

写真に映画、音楽と、アーティスティックなエンタメが
国境を越えた愛や友情を育み、同時に確執も生んでいく。
香港と日本を繋ぐ4人の男女の「天命」、その淡く鮮烈な美しさよ！

映画文筆 増當竜也

また、小原雅志氏（映画・海外ドラマライター）の次の文章がある。

説明過多ではなく、映像とナレーションで
詩的に物語るのが良い。
初期のウォン・カーウアイ作品を思い出させる。

映画・海外ドラマライター 小原雅志

しかし、それにもかかわらず、私にはイマイチ・・・。

2020（令和2）年1月7日記